

＜ もくじ ＞	
1. 2018年度定時総会・第17回大会開催のお知らせ	1～2
2. 2018年連続「読書会」第5回のお知らせ	2
3. 第4回「災害と地域社会」研究会シンポジウム報告	2～3
4. 研究会からのお知らせ	4～5
5. 各研究会の概要報告	5～6
6. JAAS マーク、会員番号入り特製名刺作成のお願い	6

1. 2018年度定時総会・第17回大会開催のお知らせ

(1) 2018年度総会・第17回大会の日程・会場が決まりました

1) 開催日時：2018年6月23日（土）

（第一部《総会》10：00～11：10、第二部《大会》11：30～16：30）

2) 開催場所：駒澤大学（駒沢キャンパス 1号館 202教室）

（東京都世田谷区駒沢一丁目23番1号）

今年の会場は、「駒澤大学」に変更になりましたので、お間違いのないようご注意ください。

3) 総 会：2018年度は定時総会において、役員改選があります。

(2) 2018年第17回大会のテーマについて

1) 本年度大会テーマ：「支え合うコミュニティの共創—格差と分断を超えて—

持続可能な超高齢社会をめざしてⅢ」

2) 基調講演：辻 哲夫（東京大学特任教授）

3) テーマ設定の趣旨

3か年計画の「持続可能な超高齢社会をめざして」というテーマの下で、過去2年間の大会テーマを、継続性を維持しつつ以下のように段階的に発展させてきました。

① 1年目（2016年）のテーマ：現代日本の格差と貧困（基調講演 駒村康平）

② 2年目（2017年）のテーマ：分断社会を超えて（基調講演 井手英策）

4) 最終年度テーマ設定の焦点：支え合うコミュニティの共創

過去2年間の議論を踏まえて、「持続可能な超高齢社会をめざして」というテーマをさらに深化させるために、以下の点に留意しました。

① 「超高齢社会」は「人口減少社会」というもう一つの問題を伴うこと

② 格差と分断を乗り越えるためには、「人びとが自立しつつ相互に支え合う関係」を基盤とするコミュニティを共に創り上げることが必要であること

③ そのようなコミュニティの持続性を可能にする条件を、国レベル、地方レベルでの社会制度的、文化的環境ばかりでなく、自然環境をも含めて整えていくこと

5) パネルディスカッション

「人びとが自立しつつ相互に支え合う関係」を基盤とするコミュニティを共に創り上げる試みを実践しているグループの代表にパネラーとしてご参加いただきます。

(3) 提言：「持続可能な超高齢社会をめざして」

第Ⅰ部総会に続く第Ⅱ部の初めに、大会企画委員会で進めてきた読書会のメンバーから、今年度までの3年間の議論を整理して、「持続可能な超高齢社会をめざして」についての提言を行います。

2. 2018年連続「読書会」第5回のお知らせ

企画委員会を中心に1月から進めている読書会は、当学会の3か年の共通テーマ「持続可能な超高齢社会をめざして」の最終年度である今年度の大会テーマ設定、および3か年のまとめの提言にも密接にかかわるものとして企画しております。ご関心のある方にはぜひともご参加いただき、大会での議論を盛り上げるためにご協力いただきたくご案内いたします。

第3回～第5回の読書会で取り上げる文献は、山崎 亮『縮充する日本「参加」が創り出す人口減少社会の希望』（PHP新書、2016）で、第5回で読み終わります。

本書が扱うテーマは、支え合うコミュニティの「共創」という意味での「参加」です。読書会の狙いは、これからの人びとの生活の基盤をコミュニティに求めつつ、国を始めとする行政との関わり、企業との関わり、自然環境との関わり、グローバル経済との関わりについて本書からさまざまなヒントを得ながら議論し、本年度大会での提言をまとめるための一助とすることです。

<第5回読書会>

- 1) 日 時：2018年5月16日（水） 15：00～17：00
- 2) 場 所：シニア社会学会事務局（渋谷パールビル4階）
- 3) 扱う章：第8章～終章
- 4) 担当者：未定

※ 参加ご希望の方は、事務局までメールか電話でご連絡ください。

3. 第4回「災害と地域社会」研究会シンポジウム報告

「あれから7年～私たちはフクシマを忘れない～

—首都圏への長期避難者が抱える葛藤と課題—

- 1) 日 時：2018年3月17日（土）14：00～17：00
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館3階第1会議室
- ◇共催：シニア社会学会「災害と地域社会」研究会・早稲田大学総合人文科学研究センター
<現代社会の危機と共生社会創出に向けた研究>部門
- ◇後援：早稲田大学地域社会と危機管理研究所「災害と地域社会」研究会
- ◆司会：長田攻一・松村 治
 - ◆報告者：大坊雅一（東雲住宅避難者自治会「東雲の会」事務局長）
佐藤恒富（NPO かながわ避難者と共にあゆむ会事務局）
西城戸誠（法政大学人間環境学部教授）
 - ◆コメンテーター：浦野正樹、伊藤まり、川副早央里

2011年3月のフクシマの原発事故からはや7年目を迎えたこの時期に至っても、原発事故の原因究明、廃炉処理、汚染された土地や建物・自然環境、健康被害、避難先での生活や人間関係、避難先での差別や偏見、帰還をめぐる生じる家族の分裂や地域での生活環境整備、動物被害、汚染土の処理など、挙げていってもきりが無い問題が解決の見通しもないままにわれわれの不安を掻き立て続けています。



2015年3月から始めた「わたしたちはフクシマを忘れない」を基調とするシンポジウムは、2011年3月の福島原発事故によって、理不尽にも普通に暮らしていた故郷を急に離れざるを得なくなった人びとの抱える困難について、県内あるいは日本各地に避難された人びとのみならず、それらの人びとを受け入れる地域の人びと、あるいはさまざまな立場から避難者支援という取り組みをしてこられた人びとをお招きして、議論を重ねてきました。

今回は、袖井会長も最初に挨拶され、長い時間このようなシンポジウムを行い続けることの矛盾と不安を感じながらも、問題が続く以上開催し続けることが重要であると指摘されました。

今回のシンポジウムでも、国が帰還を促す状況の中で、東京の東雲住宅、神奈川県、埼玉県に避難されている方々が避難先での定住や移住あるいは帰還の選択を迫られて抱えている問題について、浪江町の大坊雅一さん、横浜で福島からの避難者の支援活動を続けておられる団体の代表者の佐藤恒富さん、研究者でありながら埼玉で支援活動を続けている西城戸誠さんに、それぞれの立場からお話を伺い、パネリストとともにそれぞれの立場の交錯と離反を背景に意識しつつ意見交換を行いました。

その過程で、浮き彫りにされてきた問題は、避難される人びとの抱える問題がきわめて複雑で多岐にわたっていること、またその多様な側面は、避難する人と受け入れる人びとを含む当事者にとつてのみならず、この問題に関心を持ち続けるわれわれにとって、ある面では共有される部分を持ちながらも、それぞれ若干の乖離と齟齬をもたらさうような意味を呼び起こすこと、また「避難者」と「支援者」という関係は時の推移とともに相互にじっくりこない複雑な感情を生み出し、またその関係はどのように見直されなければならないのかといったレベルの問題へと多層化されてきています。



会場には、初めての参加者も多く、以下のような意見が寄せられました。

「日頃、「3.11」に鈍感になりつつある中、改めていまだ未解決の問題が私たちの社会に横たわっていることを再認識できた。避難者の皆さんの生の声は重い。」

「第2部は伊藤まりさんのお話が切実で「非日常が日常」である困難さが当事者の言葉で語られることは意義深いと思った。」

「私もNPOを通して、いわきへ月一度横浜から行ってはいますが、今回の話を聞いて自己満足で終わっている支援は早くやめたいと思いました。」

「不条理に立ち向かう」という言葉が印象的であった。そして「エゴにならない支援」をどう行っていくか、新たな課題もあり、まだすぐに解決できないこともわかった。」

「かながわボランティア活動基金21対象事象のVISIONに関心を持った。自分の地元でも同様の試みがないか検索してみようと思った。」

「ウェルビーイング調査の実施、調査からの傾向は興味深かった。」

シンポジウムの詳しい内容は、改めて報告書にまとめて公開いたしますので、これまでのシンポジウムの記録とともに参考にいただければ幸いです。

4. 研究会からのお知らせ

(1) 第22回「シニアのICT活用」研究会開催のお知らせ (研究会・再開) (再掲)

- 1) 日 時：2018年4月20日(金) 14:00~16:00
- 2) 場 所：(公財)ダイヤ高齢社会研究財団 会議室
新宿区新宿一丁目34番5号 VERDE VISTA 新宿御苑 3階
<http://dia.or.jp/access>
- 3) 話題提起者：森やす子(シニア社会学会理事・情報環境デザイン研究所主席研究員)
- 4) テーマと概要：「シニアのICT利用と社会関係」
多くのシニアが生活の中で、コミュニケーションメディアとしてICTを利活用しています。シニアが地域で生活し続けていく際、また他世代と交流する際、ICT活用の場面でどのようなことに直面するのか、今後考えていかなければならない点を示してみたいと思います。
- 5) 参加費：500円
※ 参加のご連絡は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(2) 第47回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年4月24日(火) 18:30~20:30
 - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館6階第7会議室
 - 3) 報告者：野坂 真(早稲田大学文学学術院 助手)
 - 4) テーマ：地方での災害復興過程における被災構造と地域再建
一岩手県大槌町における住民層ごとの地域生活モデルの再構築に注目して
 - 5) 参加費：500円(ただし、社会人を除く学生、早稲田大学総合人文科学研究センター<現代の危機と共生社会>研究部門および、早稲田大学プロジェクト研究所のメンバーは無料)
- ※お問い合わせは、福原 (fukuhara@jaas.jp) 迄お願いします。

(3) 第109回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年4月25日(水) 18:00~20:00
 - 2) 講 師：遠藤織枝(元文教大学教授・「看護と介護の日本語研究会」顧問)
 - 3) テーマ：「外国人介護従事者と日本語教育」
 - 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階
- ※ ご質問がございましたら、佐藤まで。
090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

(4) 第54回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2018年4月26日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：「『老いのパスポート』を考える」をテーマに問題提起と討議
(問題提起) 安田和紘さん。
- 4) 参加費：300円
※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) まで、お願いいたします。

(5) 第2回「ライフプロデュース」研究会月例会開催のお知らせ

1) 日 時：2018年5月18日（金）18：00～20：30

2) テーマ：「ジェンダー・ギャップを考える」

参考図書として話題作「Life Shift～100年時代の人生戦略」にお目通しを。

3) 会 場：日本プレスセンター9階「日本記者クラブ」受付集合

千代田区内幸町2-2-1（03-3503-2722）

4) 参加費：500円

※「ライフプロデュース」研究会は、現在新規会員を募集しております。入会をご検討 及びご希望の方は、下記へご連絡願います。年齢、性別、ご専門分野いずれも不問です。発足間もない当会ですので、ご自身の得意分野などを柔軟に反映する形で調査や研究活動に関わって頂くことができます。なお、当会は毎月1回、月例勉強会を開催しております。

※ お問い合わせ/ご入会相談/ご入会申し込み/ご意見/ご質問等は、下記「ライフプロデュース研究会」担当者へどうぞ。nakamura@jaas.jp

5. 各研究会の概要報告

(1) 第4回研究会合同イベントの報告

「長命時代— “しなやかに生きる力” を考える」

— 「ライフプロデュース」研究会発足記念シンポジウム—

1) 日 時：2018年3月3日（土）14：00～16：30

2) 場 所：駒澤大学 第2研究館 209号室

3) 報告者：皆川 靱 —（当学会理事、研究会座長）— 研究会設立の経過&趣旨

小平 陽 —（当学会会員）— 生きる力は「自立」から

森木まゆみ（当学会会員）— 「共生」が社会をつくる

中村 昌子（当学会運営委員）— 身近なところで「多世代協働」のヒント

4) コメンテーター：澤岡詩野（当学会理事）

— 「しなやかに生きる力とは？考える為の4つのポイント～」

※ 3月3日に開催された「ライフプロデュース」研究会発足記念シンポジウムの詳細については、学会誌「エイジレスフォーラム」第16号をご覧ください。（皆川記）

(2) 第53回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

1) 日 時：2018年3月22日（木） 15：00～18：00

2) 場 所：早稲田大学・大隈会館教職員レストラン楠亭会議室

3) 報告者とテーマ：①島村健次郎さん — 新聞紙面から見えてくる社会の姿

～格差・貧困・分断の問題を中心に～

②安田和 紘さん — 朝日新聞「書き換え問題」記事分析

今回は、二人の方から新聞記事に関する発表でした。島村さんは、2017年11月2日開催の大磯コミュニティカレッジで発表した日経新聞の記事切り抜きの分析報告及び2018年1月から購読を開始した東京新聞から直近のビッグニュース5件のテーマの切り抜きを行ない、持続可能な超高齢社会との関連の報告でした。安田さんは、朝日新聞の2018年3月2日のスクープに始まる「森友文書改ざん問題」のその後の展開について、記事切り抜きの分析報告でした。記事によって社会がどう動いたかについて指摘すると共に、記事以外にネット情報からも整理し、種々憶測が乱れ飛んでいることにより、当問題が混迷の度を深くしていると述べられた。濱口座長はコメントとして、新聞は「ヒト」に関連することが最も大切であること。「明治14年の政変」をいま調べているが、その歴史的背景と人間の生きざまとの関連を指摘され、歴史は

繰り返すこと。そして現在は過去の「影」を創っている実体を見極めるために知識を持つことが大切であると述べられた。(島村記)

(3) 第1回「ライフプロデュース」研究会月例会の報告

- 1) 日 時：2018年4月10日(火) 18:30~21:30
- 2) テーマ：「『ライフプロデュース』研究会発足記念シンポの反省と展望」
- 3) 場 所：日本プレスセンター9階日本記者クラブ談話室

2018年3月3日に開催された「ライフプロデュース」発足記念シンポジウム「長命時代—“しなやかに生きる力”を考える」での報告者に、研究会への新規加入者を含め総勢7人が参加。先のシンポでの反省を含め、研究会運営に関する各人の問題意識や要望、今後の展望などについて率直かつ活発な意見交換を行った。(皆川記)

6. JAAS ロゴマーク、会員番号入り特製名刺作成のお願い

総会・大会の会場でもご注文をお受けします。

エイジレスフォーラムでもご案内しておりましたJAAS特製名刺を作成、ご活用いただきたく再びご案内いたします。

3か年計画で大テーマを掲げてのイベントの催行や研究会の活動等を通じて、当学会の存在意義は一定の評価をいただいているとはいえ、会員数はほぼ横這いの状況が続いております。法人名に「シニア」を冠しておりますが、より若い世代の方々にも加入していただき、より活発な活動展開に結び付けたいと存じます。

ついては、現在の会員諸氏に日頃の活動で当学会ロゴ入り名刺(会員番号、@jaas.jpのメールアドレスも付与)をご利用いただくことにより、当学会の存在を喧伝していただきたく、作成のご発注をお願いいたします。

《お願い》 会員みなさまにおかれまして、会員情報(メールアドレス、登録住所等)に変更がありましたら、速やかに変更のご連絡をお願いいたします。

毎月お送りしているJAAS News が不達になるばかりか、これから発送する総会・大会資料やエイジレスフォーラムが差し戻されますと経費もかさみますので、ご協力のほどをお願いいたします。

一般社団法人シニア社会学会・事務局(月・水・金オープン)
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階
電話&FAX:(03) 5778-4728
eメール: jaas@circus.ocn.ne.jp URL: <http://www.jaas.jp/>